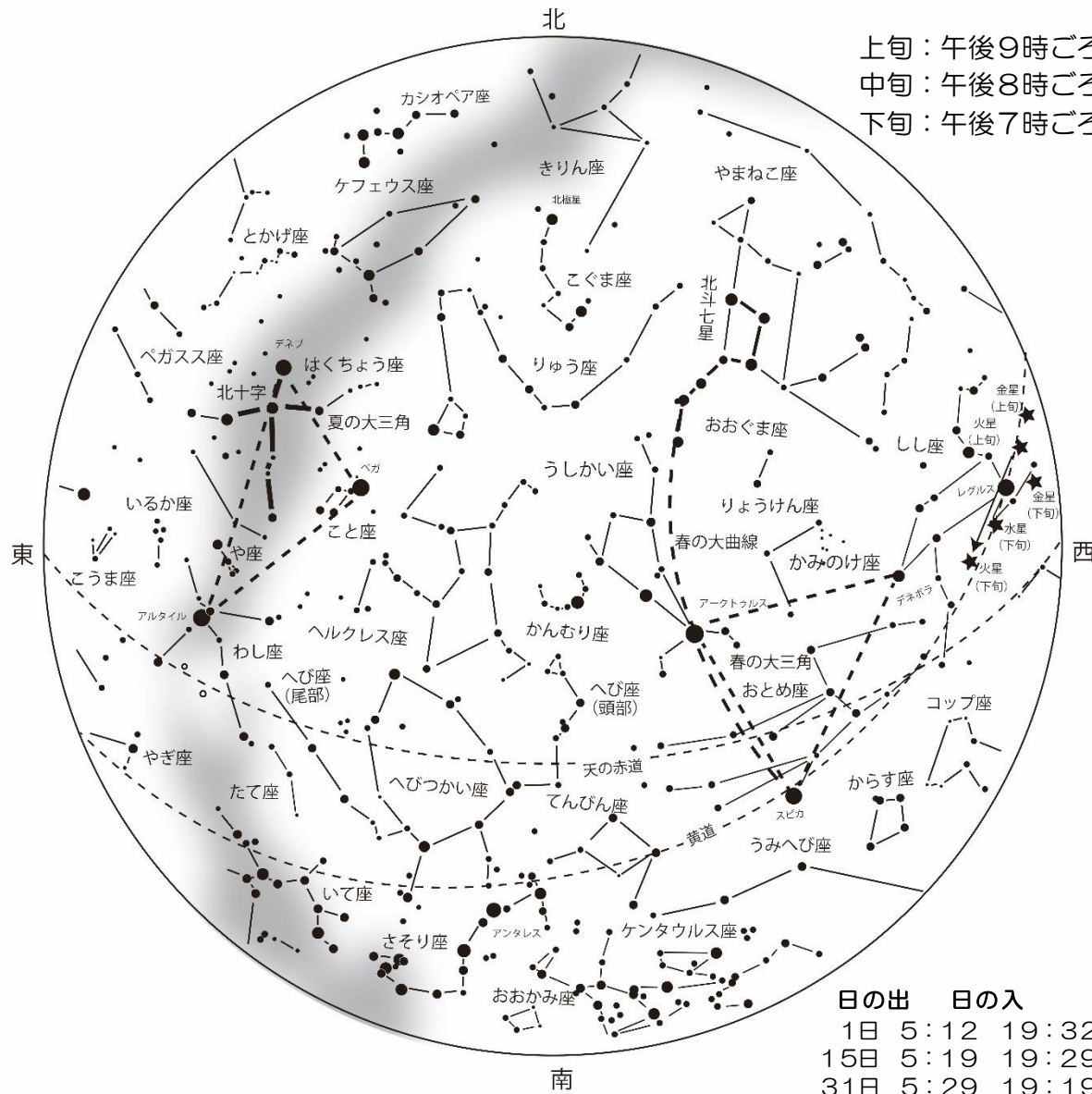


# 令和5年 7月の星空さんぽ☆ガイド

～ほしを眺めてみませんか～

## ★7月の星空案内

上旬：午後9時ごろ  
中旬：午後8時ごろ  
下旬：午後7時ごろ



日の出	日の入
1日 5:12	19:32
15日 5:19	19:29
31日 5:29	19:19

(久留米市)

7月は、いよいよ本格的な夏がやってきますが、夜空には春の星座と夏の星座を見ることが出来ます。春の星座を探すには、まず北西の空、高いところにある7つの星を結んでできる柄杓（ひしゃく）の形の星の並び「北斗七星」を探しましょう。北斗七星はおおぐま座の腰と尻尾に当たる一部です。その尻尾のカーブをそのまま伸ばしていくとオレンジ色をしたうしかい座の「アークトゥルス」があります。うしかい座はアークトゥルスから「ネクタイ」のような星の並びが目印になります。さらにそのカーブ伸ばしていくと白色をしたおとめ座の「スピカ」があります。スピカからアルファベットのYの字のような星の並びが目印になる星座がおとめ座です。北斗七星からアークトゥルス、スピカまでのカーブを『春の大曲線』といいます。夏の星座を探す目印になるのは、ベガとアルタイル、デネブの3つの星を結んでできる『夏の大三角』です。北東の空、高いところにひときわ明るく輝くこと座の1等星ベガがあります。ベガとその近くにある小さな四角形の星の並びが目印になるのがこと座です。ベガから東の少し低いところに目を移すとわし座の1等星アルタイルが輝いています。わし座はアルタイルとその両脇にある2つの星の並びが目印です。ベガから北東に目を移すとはくちょう座の1等星デネブが輝いています。また、南の空の低いところには、さそり座が見えはじめています。さそり座は、赤く輝く1等星の「アンタレス」をはさんでアルファベットのSの字のような星の並びが目印です。

今月は『春の大曲線』と『夏の大三角』をたよりに、見ごろを終える春の星座とこれから見ごろを迎える夏の星座を探してみたいかがでしょうか。

【見ごろの惑星】 (☆マークは、今月のおすすめです。)	
☆水星 (-0.7等前後)：ふたご座→しし座付近	日の入り後、西の低い空で輝く。(中旬→下旬)
☆金星 (-4.7等前後)：しし座付近	日の入り後、西の低い空でひときわ明るく輝く。(上旬)
☆火星 (1.7等前後)：しし座付近	日の入り後、西の低い空で輝く。(上旬)
☆木星 (-2.3等前後)：おひつじ座付近	日の出前、東の空で明るく輝く
☆土星 (0.7等前後)：みずがめ座付近	午前0時頃、南東の空で輝く。

**注目の天文現象(7月) ～今年最後の宵の明星「金星」の輝きを楽しもう～**

年明けから、日の入り後の西の空で宵の明星として輝いてきた「金星」が、7月7日に最大光度を迎えます。このころの金星は-4.7等という明るさで輝きます。澄んだ空では、昼間の青空の中に肉眼でも見つけることができるほどです。(白昼の金星を観察する際は、誤って太陽を見ないように十分注意してください。)最大光度の頃は、地球から見える金星に太陽の光が当たっているのは全体の4分の1ほどで、望遠鏡で見ると細く欠けた形に見えます。しかし、この時見かけの大きさは、地球から見て金星が太陽の向こう側に位置する「外合」の頃に比べて視直径が4倍にもなるため、最も明るく見えることとなります。

金星は地球より内側を反時計回りに公転している惑星です。地球から見ると、太陽に照らされている面の見え方が異なるため、金星の光度や視直径が変わります。月末には、金星の見かけの位置が太陽に近づき、月末には見ることが難しくなります。そして、8月13日には地球から見て太陽の手前を通過する「内合」の位置を過ぎるため、これ以降明けの明星として、早朝、東の空に現れるようになります。

今月は、今年最後の宵の明星「金星」の輝きを楽しんでみてはいかがでしょうか。

日	曜	天文現象	日	曜	天文現象
3	月	○ 満月 (20:39)	18	火	● 新月 (3:32)
10	月	◐ 下弦 (10:48)	26	水	◑ 上弦 (7:07)